

■天中殺と宇宙のリズム

私たちが住んでいる自然界では、すべてのものが生きています。

私たち人間はもちろん、動物たち・植物たちなど、すべてが生きて呼吸をしています。

もし死んでしまったものが存在しているとすれば、それは消滅の世界に向かっている途中の姿にしか過ぎません。

地球がまわり、風がおこり、雲が流れる状態のなかにあっても、風は風なりに、雲は雲なりに生きているわけであり、死んだなら即座に消滅の世界に消えていくだけなのです。

しかし、地球の回転は、昼と夜の世界を生み出し、風は起っては止み、雲は散っては集まります。

人間の呼吸についても、異なった二つの運動からなりたっています。

ここから次の様なことがいえます。すなわち、生きているという状態は、「静」と「動」の綾なす運動によって構成されている……ということです。

それは、「陰」と「陽」の接点にこそ生きるものすべての真理がかくされている……ということでもあるのです。

人間はつねに生きています。それは存在自体すでに「静」と「動」をはらんでいるのであり、いつ、いかなるときにおいても、人間自身の行為の中に「静」と「動」とは、かたちをもってあらわれ、またそれが生きていることの証しともいえるでしょう。

死んだものには、「静」と「動」はなく、「陰」と「陽」の動きからも無縁なのです。

さて、人間が生きていく上で呼吸が欠かせないように、人間が体をもって現している「宿命」や「運命」もつねに呼吸を繰り返しています。

運命の呼吸もいふなれば、「静」と「動」働きであり、人間のエネルギーの運動と静止、という二つの状態をさすものといえるでしょう。

算命学では、陽転と陰転という区分をもって両者を説明しています。「陽転」とは人間のエネルギーが肉体から外界に向けて働きかけている状態の事であり、「陰転」とは外界から肉体に向けて逆に働きかけている状態を指すのです。

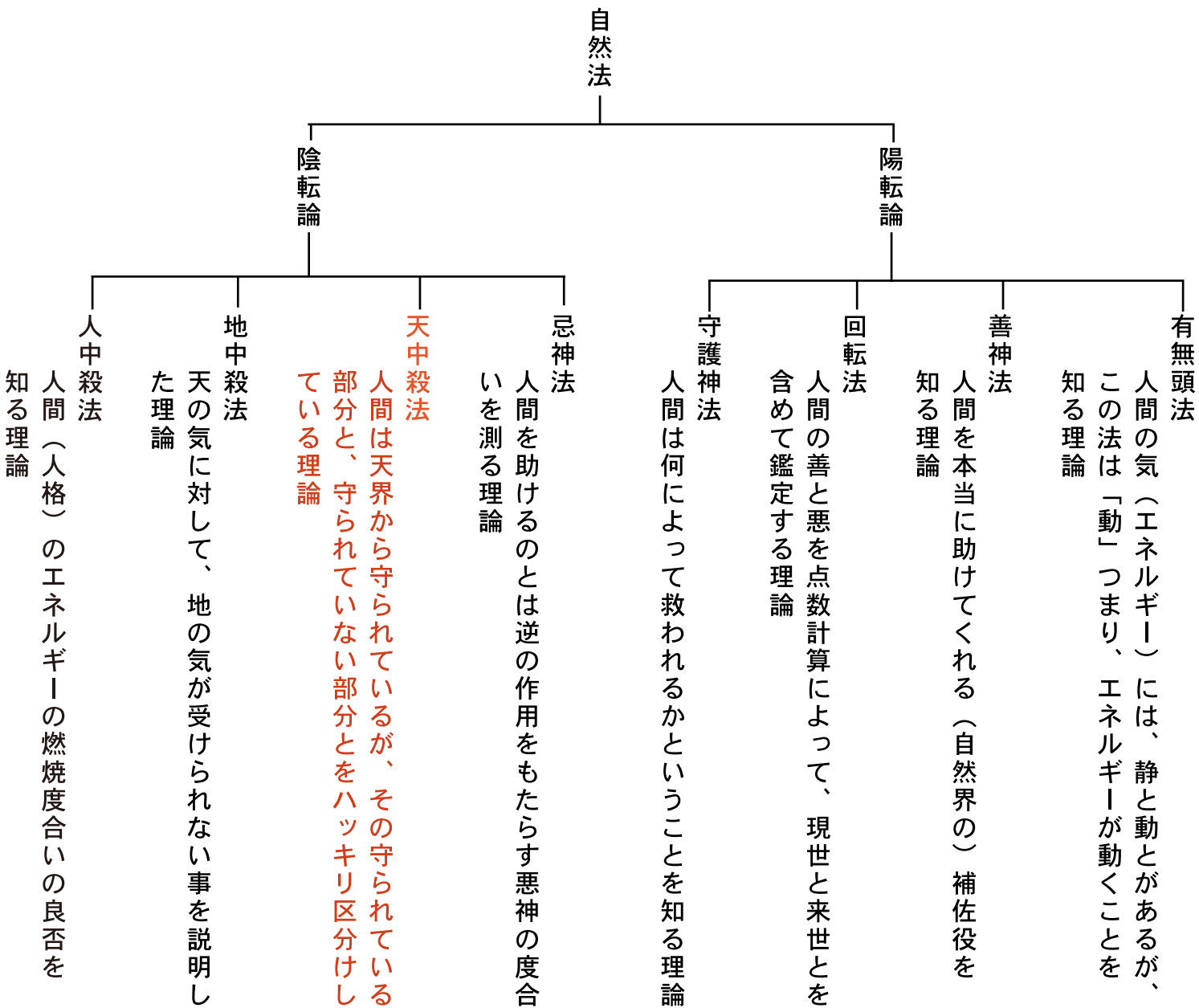
陽転と陰転の状態をより詳しく分析していくこともできますが、とりわけ後者、つまり運命の呼吸の「吸」の部分、ここを理論的につかみ出したのが『天中殺』なのです。

一日に昼と夜があるように、動と静があります。昼は働いたり、遊んだりしている人でも夜になると休みます。そのように自然の理と人間の行動は一致しています。

運命にも、その中で存分に働ける運命と、休まなければならない運命と両方あるのです。その休まなければならない運命を、天地自然の理から抜き出して、『天中殺』の名で世に表したのです。

つまり『天中殺』というのは一日にたとえれば「夜」、私たちの気分もまた夜でなければならない時です。

『天中殺』は怖い……というまえに、これは休むべき時だという事を、まず頭に入れておいて下さい。



人間が生きていく上で呼吸が欠かせないように、人間が体をもって現している「宿命」や「運命」もつねに呼吸を繰り返している。↓（陰陽論）
算命学では、陽転と陰転という区分をもって両者を説明しています。「陽転」とは人間のエネルギーが肉体から外界に向けて働きかけている状態の事であり、「陰転」とは外界から肉体に向けて逆に働きかけている状態を指すのです。

■天中殺とは……？

「天中殺」とは「天が中殺する」と書きますが、「中殺」という言葉には「激しく動かして、その機能を止める」という意味があります。

「激しく動かす」と言うことは、不安定から崩壊（ほうかい）にもつながり、機能を止めると言うことです。人が生きていくうえの現実的なことから、時のめぐりあわせまでも、そのはたらき・作用・能力、すべての事柄を止めると言うことになります。それは、仕事・家庭・財運・健康さらには人間関係にまで、あらゆることに広範囲にまたがって働きを止めてしまう現象だ、と云われています。

それだけに「天中殺」に事をおこすと必ず崩壊し人生破滅につながる。…と言い伝えられています。

■天中殺を……大別すると。

- ①天界天中殺 ②地界天中殺 ③人界天中殺

に大別されています。天中殺の種類はたいへんに多く、その数は三千数百ほどもあるのです。

しかし、ふだん私どもが「天中殺」と云っているのは「人界天中殺」のことなのです。

■「人界天中殺」は次の六つに分類されています。

- ①戌亥天中殺 ②申酉天中殺 ③午未天中殺 ④辰巳天中殺 ⑤寅卯天中殺 ⑥子丑天中殺

人は誰でもこの六つの天中殺のうち、どれか一つの天中殺に入りますが、この「人界天中殺」の種類と用法を説明する場合、さらに三種類に分けています。

- ①宿命天中殺 ②後天天中殺（運命天中殺とも云います） ③極大天中殺

①「宿命天中殺」は…人間が生まれながらに所有している天中殺のことを云いますが、これは運勢の吉凶を判別するものではなくて、その人が持って生れた、ある種の特色・カラーを判別するためのものです。

②「後天天中殺」…は、その人が生れたあと、後天的な運命としてめぐり来る天中殺のことです。

ここで皆様には「宿命」と「運命」について考えて頂かなければなりません。

算命学では「宿命」を『生の瞬間において天命として与えられた約束事を云う』と定義しています。

例えば、その人が男に生れた・女に生れた、あるいは、父を選ぶ・母を選ぶ……などのように変える事も選ぶ事さへも出来ない…ものを「宿命」とな名付けていますし、「運命」とは『時間と空間における人間の生存行程を云う』と定義しているのです。

算命学では「宿命」は「与えられたもの」であり、また「宿命」は「静止」しているものと考えて説明をしています。それにたいして「運命」は常に「動いている」と考えているのです。

「運命」は「生存行程」なので、人はそれを選ぶ権利を持っているのです。

配偶者を選ぶ・自分が生活するところ(環境)を選ぶ…などのように、人はそれぞれ生れてから後の行程を「運命」と呼んでいるのであります。

「宿命」は「静」であり、「運命」は「動」ですが、しかし職業や配偶者を選ぶにおいても自分に与えられた「宿命」を無視して、「運命」のみを論じることが出来ないのです。

「運命」は「宿命」が根柢にあってはじめて動きだすものであって「運命」から「宿命」は生み出される事はないのです。

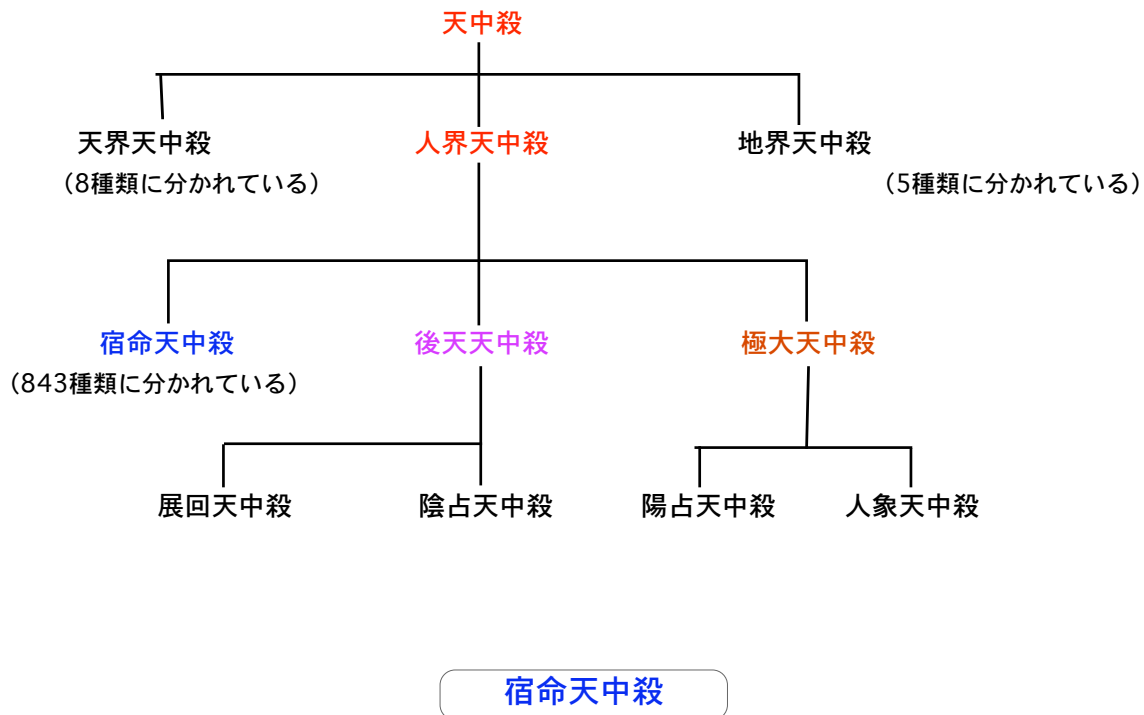
皆さんが「運命」を良くしたいとお考えならば、ご自分の「宿命」を良く知る事が必要条件なのです。

この「宿命」と「運命」の定義を土台として算命術は人間の「気運」を探し出そうとするのであります。

③極大天中殺…は算命占星術の占いから発せられた、現実的な現象による天中殺で、これは、さらに二大別されているのです。

その一つは「陽占天中殺」、もう一つは「人象天中殺」と呼ばれているもので、これらは算命学の想定法と気図法の二つの技術(占技)を応用することによって算出する天中殺なのですが、説明が複雑なものになりますので、ここでは省かせて頂きます。

■天中殺……の種類を図表にしてみました。



●「人界天中殺」は次の六つに分類されています

- ① 戌亥(いぬ ゐ)天中殺 ② 申酉(さとり)天中殺 ③ 午未(うまひつじ)天中殺
④ 辰巳(たつ み)天中殺 ⑤ 寅卯(とら う)天中殺 ⑥ 子丑(ね うし)天中殺

人は誰でも次の六つの天中殺のうち、どれか一つの天中殺に入りますが、天中殺には、この他にも、「生れた年」「生れた月」「生れた日」のいずれかが天中殺と重なっている人がいます。

つまりその人は、生まれながらに天中殺を持っている人と考えて「宿命天中殺」と呼んでいるのです。

これは運勢の吉凶を判別するものではなくて、その人が持って生れた、ある種の特色やカラーを判別するためのものですから、心配なさる必要はありません。

後天的にまわってくる「年運天中殺」「月運天中殺」「日運天中殺」に対しても、生まれながらの「宿命天中殺」が、天中殺の免疫のような働きをしてくれるので、その影響力は「後天天中殺」の人より小さくてすむ……という利点もあります

しかし、天中殺の時期は自分の天中殺のときですから、「新しい事」をなさることは控えて下さい。

人間の運命はその人の心の持ち方、生き方、環境で変わっていくものですから不幸な出来事や、不運な現象の原因がすべて天中殺に起因しているとは申せませんが天中殺期間中に“新しいコトを起こす”と災いに遭う確率が異常に高いのは動かしがたい事実です。

とくに、「宿命天中殺」の人は「年運」「月運」「日運」でない時期に、天中殺の災厄現象に巻き込まれる ことが多いので注意する必要があります。

■宿命天中殺

陰占天中殺はすべての現象が極微界(陰占)に現れるものです。しかし、陰占の世界は極微界であるために人間の肉眼でみることは出来ません。

それは、人間の行動として現れる陽占の原因ともなるべきもののなのです。

「陰占」も「陽占」も「天中殺」の算出は、どちらも「干支」によるのです。

それを、あえて「陰占天中殺」と「陽占天中殺」に区分しているのは、現象として表面への現われ方が違うからなのです。

■宿命天中殺の種類

- ① 互換中殺……………陰占で両親と自分自身の位置(場所)が、お互いに中殺しあうかたち。
すべてのエネルギーを支えているのは自分自身であるから、自分で自分を中殺していることになる。
それだけに、自己のエネルギーが発揮できにくいということになる。
- ② 生年中殺……………陰占の親の位置(場所)を中殺する、かたちになっている。
それだけに、親の恩恵・愛情が受けにくくなる。
- ③ 生月中殺……………陰占上で社会の位置(場所)を中殺する、かたちになっている。
男性の場合は、社会と時代が本人と融合しないため社会に背を向け、時代の波に合わないような生き方を
するが、女性の場合には、社会での生き方が二次的であるため、配偶者を通じて表出される。
- ④ 生日中殺……………陰占上で親から自分が中殺される、かたちになっている。
年干支(親)の天中殺範囲が日干支(自分)の支を中殺しているかたち。
- ⑤ 日座中殺……………生日干支が「甲戌」か「乙亥」の干支の人。この干支は天中殺範囲の第一句で出発点であり
終点でもある。つまり日干支そのものの「天中殺」で、純粋な天中殺現象が現れるところから、この中殺
を「天中殺」中の「天中殺」と言っている。
- ⑥ 同一中殺……………相手と自分とが、同じ天中殺になっている。
- ⑦ 相互中殺……………相手と自分が、お互いに中殺するかたち。
- ⑧ 宿命二中殺……………宿命天中殺が二つ重なるかたち。

●「陰占」の場所の意味

